



のほりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo



特集

第3期きずな計画づくりスタート!!

今年新しく新川町にふれあい・いきいきサロンとして発足した「ふれあいサロン」。
この日はノルディックウォーキングで、ゆっくり健康づくりと仲間づくり。

CONTENTS

- P2・3 特集 第3期きずな計画づくりスタート!!
- P4・5 赤い羽根共同募金が始まります
- P6 きずなのまちづくり助成事業
- P7 社会福祉基金造成事業／社協寄付金・寄付物品
- P8 社会福祉大会／小地域ネットワーク活動推進事業



2015
09.01 No.

123

〔発行〕社会福祉法人 登別市社会福祉協議会

〔事務局〕登別市片倉町 6-9-1
登別市総合福祉センターしんた 21 内

〔TEL〕0143-88-0860

〔FAX〕0143-88-4546

〔mail〕info@kizuna-shakyo.main.jp

〔HP〕<http://kizuna-shakyo.main.jp/>



 この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

特集 第3期きずな計画づくりスタート!!



きずな計画とは、福祉のまちづくりをめざして、地域住民や関係機関などがそれぞれの立場において出来ることをまとめた「登別市地域福祉実践計画」の愛称です。

今年度は、平成28年度から32年度まで取り組む第3期きずな計画の策定年度にあたり、すでに策定に向けた取り組みが始まっています。今回の特集では、これまでの取り組みを一部ご紹介します！

プロジェクトチームの設置

各専門機関や地域住民の意見を計画策定に反映させるために、プロジェクトチームを設置して検討を重ねています。

また、各プロジェクトチームで挙げられた意見を、地域住民の代表者で構成された「きずな推進委員会」において集約・協議をしています。



●各プロジェクトチームの役割

○地域包括ケアプロジェクトチーム

- ・介護予防に関することの協議
- ・生活支援サービスに関することの協議

○障がい福祉プロジェクトチーム

- ・働く障がい者の就労支援と社会参加に関することの協議

○きずなアンケートプロジェクトチーム

- ・アンケート項目・要件・対象等の協議・設定
- ・アンケートの実施と計画への反映

○計画評価・指針作成プロジェクトチーム

- ・第2期きずな計画（平成23年度～27年度）の評価に関することの協議
- ・第2期・第3期きずな計画の評価指針の検討・作成
- ・財源確保に向けた検討

用語説明 ☆地域包括ケアシステム

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的とした、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう構築する、地域を基盤とした住民参加の包括的な支援・サービスの提供体制の総称。

用語説明 ☆介護予防

高齢者が要介護状態になることを防いだり、要介護状態の人がそれ以上悪化しないよう身体機能の維持・改善を図ること。

きずなシンポジウム

6月27日（土）、しんた21において「第3期きずな計画策定に向けて」をテーマに、きずなシンポジウムを開催しました。シンポジウムの前半では、家庭医の視点から地域とのつながりの大切さを講演いただき、後半のリレートークでは、これからの制度の変化や市内・市外の福祉活動についての発表を通して、これからの地域福祉活動への提言をいただきました。

講演 「家庭医から見た医療と福祉 ～地域の力とつながりがなぜ必要なのか～」

医療法人 若草ファミリークリニック 院長代行 村井 紀太郎 氏



家庭医は、患者さんやその家族、暮らしている地域の状況を見て、他医療機関や保健・介護・福祉の担当者と連携して、患者さんと家族が納得する医療を提供する役割を持っていますが、その中で地域の問題や個人の困りごとを相談される場合があります。その際は、市の保健師、地域の民生委員、福祉担当者などと協力して問題解決にあたります。地域の問題に真っ先に気づくことができるのは、同じ地域に住む人々です。

認知症を例に挙げるとするならば、認知症は関係性の病といわれており、周囲の理解を得なければ近所づきあひも難しくなります。しかし、本人も心の底では不安感を感じているため、その気持ちに寄り添うことが大切です。さらに、家族の負担は現在の福祉サービスだけではまかないきれないため、その負担を地域で何とかできるような手段があれば安心できるのではないのでしょうか。

認知症は誰でもなる可能性のある病気であり、認知症の人は私たちと同じ1人の価値ある人間です。認知症や他の病気になっても安心して暮らせるまちになることを願っています。



リレートーク 「一人ひとりの課題を地域の課題に!! ～考えよう!!これから求められる地域の福祉活動～」

①「介護保険制度が変わって 地域に求められる 取り組み」

登別市役所 高齢・介護グループ
総括主幹 土門 和宏 氏



今回の改正に伴う地域包括ケアシステムなどの新しい取り組みについては、介護事業者だけでなく、地域で活動されている方の協力が必要です。

登別市はボランティア活動、サロン活動などさまざまな支援活動がしっかりと根付いているため、その力を地域支援にお貸しいただきたいと考えています。

②「働く障がい者が抱える 悩みと地域のつながり」

社会福祉法人ホープ
フロンティア登別
施設長 山田 大樹 氏



働く障がい者の悩みは難しいものが多いですが、皆さんの理解を得ることで解決できるものだと感じます。皆さんに生き生きと頑張る姿を実際に見ていただいたり、情報を発信したりすることで、理解を広げることが大切だと考えています。また、ちょっとしたお手伝いが可能になるサービスや障がい者の親に対しての支援も必要です。

③「地域でつながる!!課題を 解決に導く福祉活動」

NPO法人
御用聞きわらび
施設長 星 貢 氏



支え合い機能が低下した地域コミュニティの補完や介護サービスでまかないきれない部分の補完をNPOなどの団体で行い、生活支援を充実することで在宅生活が少しでも長くできる環境になると良いのではないのでしょうか。その担い手を、地域の元気な高齢者にお願いすることでより地域が活性化すると考えます。

きずな大使 鳥居 一頼 氏

第1期・第2期のきずな計画では、将来を見据えた地域福祉の基盤を整備してきました。新しい計画では、今後5年10年先のスタンスも視野に入れていく必要があるため、策定過程において皆さんの意思を表しながら、共に力を合わせていくことが求められます。

1人の不幸も見逃さず、登別市に暮らしていてよかったと思えるようなまちづくりを行う決意が必要な時代になったのだと思います。

きずな推進委員会 委員長 山田 正幸 氏

平成24年の大規模停電の経験もふまえ、今後お互いに助け合いができる社会をいかにして構築していくかが第3期の大事なテーマになります。登別市が福祉のまちと言われるようになるためには、皆さんの力が重要です。今後ご協力、よろしくお願いたします。

今後も社協だよりやホームページにおいて、状況を随時発信していく予定です。
皆さまのご協力、よろしくお願いいたします!





赤い羽根共同募金運動が始まります

今年も赤い羽根共同募金運動が10月から始まります。12月までの3か月間、戸別募金をはじめ様々な方法で募金活動が行われます。

期 間 10月1日～12月31日まで

目標額 7,100,000円

※共同募金は、社会福祉法に位置付けられた募金活動です。

・募金の使いみち

市民の皆さんにご協力いただく寄付金の約7割が登別の福祉活動に、約3割が全道規模の広域的な福祉活動等に活用されます。

・登別の福祉活動への助成

登別ではボランティア団体等への助成から、小地域ネットワーク活動（近所同士での見守り・声かけ活動等）、地域でのサロン活動等、市民の皆さんが主体的に取り組む様々な地域福祉活動へ活用されています。

・さまざまな募金方法

- ① 家庭を対象とした「戸別募金」
 - ② 通行人を対象に運動をPRする「街頭募金」
 - ③ 企業を対象とした「法人募金」
 - ④ 個人を対象とした「篤志家募金」
 - ⑤ 従業員を対象とした「職域募金」
 - ⑥ 児童・生徒を対象とし、福祉教育を目的とした「学校募金」
 - ⑦ 各種イベントでの「イベント募金」
- その他にも募金箱の設置等、皆さん一人ひとりのできるカタチでご協力をお願いします。

登別市共同募金委員会 役員・評議員をご紹介します

(任期：平成27年8月1日～平成29年7月31日)

- 会 長** 横尾 逸郎
- 副会長** 山田 正幸・竹内 芳郎・池畠 泰彦
- 理 事** 辻 勲・原 小百合・佐藤 史彦・太田 通・田代 健二・名波 俊昭・岩井 渡・水口 清・中川 信市・伊清 淳彦・竹中 脩巖・三浦 忠夫・田淵 純勝・八重樫一男・雨洗 康江・南 行雄
- 監 事** 前田 文彦・秋葉 薫
- 評議員** 須賀 武郎・松宮登美子・太田 憲明・秋山 恵教・竹中 洋子・田淵 利男・畑山 功一・荒関 芳弘・村井 寿行・工藤 章造・亀山 聖・平田 誠治・二木 哲成・山道 春秋・海老名庄三郎・菊地 由三・鈴木 信義・川島 芳治・伊藤 秀男・岸 正治・日野 安信・森 忠義・秋山 勝利・山口 登・小沢裕美子・伊藤 信一・堀尾 政江・山道知衣子・長澤 汀子・藤原 裕子・中原 義勝・萩原 純子・花野 正則・浅見 郁子・鈴木 朋子・辻 君予・曾根 綾子・山田 大樹・小林 藤子・菅野 正一・對馬 敬子・廣瀬 淑子・直野 勝美・金子 健二・相馬 裕一・大塚 雅春・堀川千恵子・近藤トシ子・工藤俱二雄・筑野 栄子

新たな募金のカタチ ～募金型自動販売機～

商品売り上げの一部が募金へとつながる自動販売機は、現在市内3カ所に設置されています。皆さんの身近なところへの設置も可能ですので、法人・企業の皆さん、自動販売機新規設置の際はぜひご相談ください。



社会福祉法人ホープ フロンティア登別さん（中登別町）に新規設置していただきました!!

あなたの地域で イベント募金

年間を通して市内の各種イベントにおいてブースを設けて共同募金のPR活動を実施しています。
全市的なイベントから、町内会・商店・企業・団体等の身近なイベントや行事まで、さまざまな場面で、のぼり旗や風船、募金箱等を設置いただきPR活動を展開してまいります。
各種資材の貸出も可能ですので、皆さんの地域でも設置が可能でしたら事務局までお問合せください。

登別の福祉を応援する
このバッジが、
たくさんの人に
届きますように!!

寄付金付き記念バッジ完成!!

登別限定 / 数量限定

「赤い羽根共同募金×登別市PRキャラクター登夢くん」
登別市市制施行45周年を記念して、日本工学院北海道専門学校 학생さんデザインで寄付金付き記念バッジを製作しました。
本会事務局をはじめ市内各所にて取扱いをしておりますので、ご希望の方は本会までご連絡ください。商品購入代金の一部は、登別市共同募金委員会を通じて、登別の福祉活動に活用されます。



あなたも地域の

応援サポーター

になりませんか?

赤い羽根共同募金には北海道の福祉活動推進への貢献を目的に運動を応援してくれるサポーターがいます。

- 『北海道日本ハムファイターズ(野球)』
- 『コンサドーレ札幌(サッカー)』
- 『レバンガ北海道(バスケット)』
- 『初音ミク』『妖怪ウォッチ』等

※登別で活動する地元のスポーツ団体・少年団・サークル等からの「赤い羽根サポーター宣言」もお待ちしております!



お問合せ先

登別市共同募金委員会
電話：88-0860
FAX：88-4546



※法人・企業による募金(寄付)の取扱いについて
共同募金は、税制上、国や地方公共団体と同じように、寄付に対する優遇措置の対象団体となっています。法人・企業が共同募金に寄付をすると、その全額を損金の額に算入することができます。これは共同募金に対する寄付が財務省からの指定寄付金として認められているからです。

きずなのまちづくり助成

助成事業決定!

登別市地域福祉実践計画「きずな」の趣旨に沿った地域福祉活動やボランティア活動に対して、赤い羽根共同募金の支援を受け活動費の助成を行っています。今年度は28の事業に対しての助成が決定しました。



平成27年度きずなのまちづくり助成 助成事業一覧

(団体名/助成額)

視力障がい者への理解を深める啓蒙事業(登別視力障害者協会/60,000円)、年間活動を通して障がいについての啓発・ボランティア育成・7団体の交流を含む社会見学等の総合的的事业(登別市障害者福祉関係団体連絡協議会/60,000円)、肢体不自由児への理解と地域参加を図るための交流事業(登別肢体不自由児者父母の会/40,000円)、「ぼぼキッズ」の開設とぼぼくらぶ活動事業(障がい児親子の会ぼぼくらぶ/45,000円)、手話講習会開催事業(登別手話の会/40,000円)/知的・発達障がいのある児童の余暇支援と親同士の交流事業(登別市手をつなぐ育成会/17,000円)、知的・発達障がいのある本人の社会参加・余暇活動・ボランティア育成事業(登別市手をつなぐ育成会/25,000円)、障がい者への理解を求め、市民との絆を深めるバリアフリー実践学習事業(バリアフリーネットワークつばさの会/47,000円)、室蘭・登別心身障がい者職親会活動事業(室蘭・登別心身障がい者職親会/50,000円)、手話通訳士養成事業(登別聴覚障がい者協会/15,000円)、地域における栄養教室事業(登別市食生活改善推進員協議会/34,000円)、犯罪予防の考え方を普及・啓発する事業(登別更生保護女性会/54,000円)、安心して安全なまちづくり・自主防災活動を通じたきずなづくり推進事業(登別市連合町内会/100,000円)、“鬼まつり”キャンドルフェスタによる世代間交流事業(NPO法人ライフサポート/30,000円)、心と身体の健康に役立つ料理教室事業(ボランティア花つなの会/14,000円)、視力障がい者の日常支援事業(登別朗読ボランティアの会/70,000円)、布の絵本・遊具製作事業(布の絵本ボランティアの会/45,000円)、点訳サービス事業・点訳研修会・初心者点訳講座・出前講座事業(登別市点訳赤十字奉仕団/60,000円)、障がい者及び高齢者へのパソコンサポート事業(パソコンボランティアプラザ登別/65,000円)、視力障がい者のガイドヘルプ支援事業(登別ブラインドボランティアの会/33,000円)、配食安否確認事業(NPO法人ゆめみ〜る/70,000円)、介護衣類のリフォーム事業(ハンズ・メイト/37,000円)、オカリナコンサート事業(サウザンド・パワー/10,000円)、ノルディックウォーキングを通じた健康推進事業(登別ノルディックウォーキング愛好会/15,000円)、整膚の施術や講座開催による健康維持・増進のボランティア事業(登別整膚ボランティア会/15,000円)、鷺別小学校区子どもの見守り活動事業(鷺別子ども見守りたい/10,000円)、町内会におけるきずなづくり推進事業(登別市連合町内会/100,000円)、在宅福祉ボランティア事業(在宅福祉ボランティアとわの会/25,000円)

総額 1,186,000円

皆さんへのありがとうメッセージ

布の絵本ボランティアの会

布の絵本ボランティアの会は、毎週金曜日にしんた21で活動しています。皆さんからの善意でいただいた助成は、これから製作する布の絵本や遊具の材料費などとして大切に活用させていただきます。

ありがとうございました!



平成27年度 社会福祉基金造成事業のご報告とご案内

ビールパーティー

	益金
登別地区	127,178 円
幌別地区	258,663 円
鷺別地区	130,093 円
合計	515,934 円



市民演芸会

	日程・場所(予定)
登別地区	10月24日(土) 登別市婦人センター
幌別地区	12月5日(土) 登別市民会館
鷺別地区	10月10日(土) 鷺別公民館



現在の社会福祉基金積立金の総額は41,262,330円です。
収益は、市民とともに進める地域福祉活動の財源として活用されます。

社協寄付金 (平成27年4月1日～平成27年7月31日)

(敬称略)

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付の目的
27.04.10	新和産業株式会社	50,000円	市内子育てサロンのおもちゃ等の物品購入のために
27.04.10	室蘭民報 中部支社	30,000円	「新入学児童」新聞広告料の一部を社会福祉のために
27.04.22	鳥居 一頼	20,000円	第1回きずな推進委員会の講師謝礼金を社会福祉のために
27.04.22	わしこうD愛好会	10,000円	第9回ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
27.04.28	いずみ亭	19,925円	愛の小箱
27.04.30	登別市観光ボランティアガイド会	2,000円	社会福祉のために
27.05.08	越前登美子	100,000円	父 高橋豊の葬儀に際し、社会福祉のために
27.05.22	国際ソロプチミスト登別	30,000円	チャリティーコンサート「愛のうたの夕べ」の益金の一部を社会福祉のために
27.05.24	仲良し会	20,000円	仲良し会チャリティー発表会 紅白歌合戦の益金の一部を社会福祉のために
27.05.25	匿名	1,240円	第1回理事会の費用弁償を社会福祉のために
27.05.25	吉野 良子	1,480円	第1回評議員会の費用弁償を社会福祉のために
27.05.28	協同組合登別中央ショッピングセンター	14,400円	愛の小箱(ガチャガチャ)
27.05.29	辻 勲	1,020円	共募第1回理事会の費用弁償を社会福祉のために
27.06.27	田中 秀治	10,000円	主任児童委員研修会の講師謝礼金を社会福祉のために
27.06.28	日本アマチュア歌謡連盟NAK室蘭支部	30,000円	NAK室蘭&舩舩3兄弟カラオケ大会の益金の一部を社会福祉のために
27.06.29	いずみ亭	21,504円	愛の小箱
27.06.29	協同組合登別中央ショッピングセンター	7,500円	愛の小箱(ガチャガチャ)
27.07.05	わしこうD愛好会	10,000円	第10回ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
27.07.06	幌別地区ビールパーティー実行委員会	22円	愛の小箱
27.07.07	老人クラブ 寿楽会	30,000円	創立45周年の記念行事で集った益金を社会福祉のために
27.07.09	西胆振オカリナ協会	3,500円	サウザントパワーライブinのぼりべつで集まった募金を社会福祉のために
27.07.11	鷺別地区ビールパーティー実行委員会	1,213円	愛の小箱
27.07.13	匿名	20,000円	社会福祉のために
27.07.21	登別中学校生徒会	5,905円	「毎月1円募金」活動によって集まった募金を社会福祉のために
27.07.30	協同組合登別中央ショッピングセンター	10,000円	愛の小箱(ガチャガチャ)
27.07.31	辻 勲	1,020円	共募第2回理事会の費用弁償を社会福祉のために

社協寄付物品 (平成27年4月1日～平成27年7月31日)

(敬称略)

受領年月日	寄付者名	寄付品名
27.05.28	イオン北海道(株)イオン登別店	イオン幸せの黄色いレシート 応急生活支援事業貸出備品購入のため

心のこもったあたたかい善意、誠にありがとうございます

社会福祉大会を開催します!

社会福祉関係者をはじめ、市民参加による福祉のまちづくりの実現を目指し、登別の福祉発展に功労のあった団体や個人への表彰と地域福祉活動等の取り組みについて理解を深める場として開催します。ぜひお越しください。

日時 平成27年10月1日(木)
13:00~16:00

会場 登別市民会館 大ホール

内容 社会福祉功労者への表彰
赤い羽根共同募金運動開始宣言
映画上映「オハイエ!2」など

入場料 映画観賞付チケット
前売券200円/当日券300円
(高校生以下、無料)

※チケット代金の一部が共同募金として地域福祉活動等に活用されます。

主催 登別市社会福祉協議会・
登別市共同募金委員会

9月よりチケット販売を開始します
取り扱いやお問い合わせは
本会・総務課まで(☎88-0860)

映画紹介

オハイエ!2

あらすじ

障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽の力で“心のバリアフリー”を目指す「とっておきの音楽祭」の開催を多くの人が待ち望んでいたが、仙台市での開催86日前に東北を地震や津波が襲った。出演者の強い思いを受け開催を決定するが、それは苦難の日々のはじまりだった。

この映画は、ガレキの中で音楽の力を信じ、どのような困難な状況の中でも笑顔を忘れず、音楽で明日を見続ける人たちの再生と希望の物語です。



オハイエとは

「おはよう」と「イエー」を組み合わせた造語です。シンガーソングライターのあんべ光俊さんの楽曲のタイトルにもなっており、映画の随所に使用されています。

小地域ネットワーク活動の全市展開に向けて!

平成24年の大規模停電の経験を活かすべく、新たに災害時や緊急時を意識した平常時からの地域の支え合い・見守り活動を行う「小地域ネットワーク活動」が7月から本格スタートしました。

本活動は、町内会を主体として、「きずなづくり台帳」及び「きずな安心キット」を無償配布し、活用してもらうことで、地域の支え合い・見守り体制を構築するものです。

登別市、登別市連合町内会、登別市民生委員児童委員協議会との連携のもと、本活動の全市展開をめざしており、7月末現在、34町内会から参加申込みをいただいています。

全市一丸となって本活動に取り組み、地域のきずなを深めるためにも、ぜひともご参加くださいますようお願い申し上げます。

本活動の詳細は社協だより121号(平成27年3月1日発行)に掲載しているほか、本会・地域福祉課(☎88-0860)までお問い合わせください。

